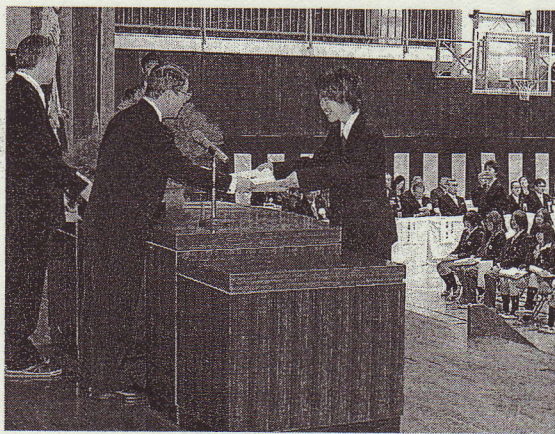


不登校克服 三部制からの巣立ち

県内初導入 松戸南高

1期生55人が卒業



県内で初めて三部制の定時制を導入した松戸南高校の卒業式

県内で初めて三部制（午前、午後、夜間）の定時制を導入した県立松戸南高校（松戸市紙敷）で6日、卒業式が行われ、三部制の1期生55人と全日制の56人が卒業証書を授与された。同校によると、三部制の生徒の約7割は、小中学校時代に不登校に苦しんだが、全日制より多くの生徒が皆勤賞や精勤賞を受けるなど、3年間で巣立ちの日を

迎えた。

三部制は、主に夜間のみの定時制の授業を、生徒たちの生活リズムにあわせて学ぶ場を提供する目的で、2006年に初めて同校で導入された。翌年には県立生浜高（千葉市）で導入され、県内2校のみ。

単位制で他の時間帯の授業も履修できることから、通常4年かかる定時制を3年で卒業することも可能。松戸南高ではこの日の55人に加え、あと11人が今月中に卒業する見込みという。

同校の三部制では、教師50人余りに対し、各授業が生徒15~20人程度の少人数で、教師側から積極的に声を掛けるほか、生徒の多くが不登校経験者のため、相互に理解しあえることがメリットとして大きいという。今年には13人が大学・短大に進むなど、地元の中予でも評価が高まり、今年の入試では初めてどのコースも定員割れがなかった。それでも、1期生186

人に対し今の3年生は139人で、経済的理由などで退学した生徒も少なくないという。平本武男校長は、三部制の卒業生に向けて「友が志半ばで学校を去っていく中、最後までやり遂げた努力に、心から敬意を表したい」と式辞を述べた。

大学に進学して福祉を学ぶという日色日向子さん（18）は「電車にも乗れな

った自分が、理解してくれ
る友達が出来て外向的にな
れた。先生も補習などで聞
きやすい感じだった」と話
していた。